1　研究主題

自己を見つめ、学ぶ喜びを実感する授業づくり
－「分かる・できる」「自分・仲間」「手応え・楽しさ」がつながる学びを通して－

2　育成したい資質・能力

【学】自己をよりよく見つめ、見通しをもち、自ら学ぶ力
【結】人や事物と関わって学ぶことのよさを実感し、協働で学びを深める力
【挑】安定した前向きな感情をもち、よい行動を持続できる力

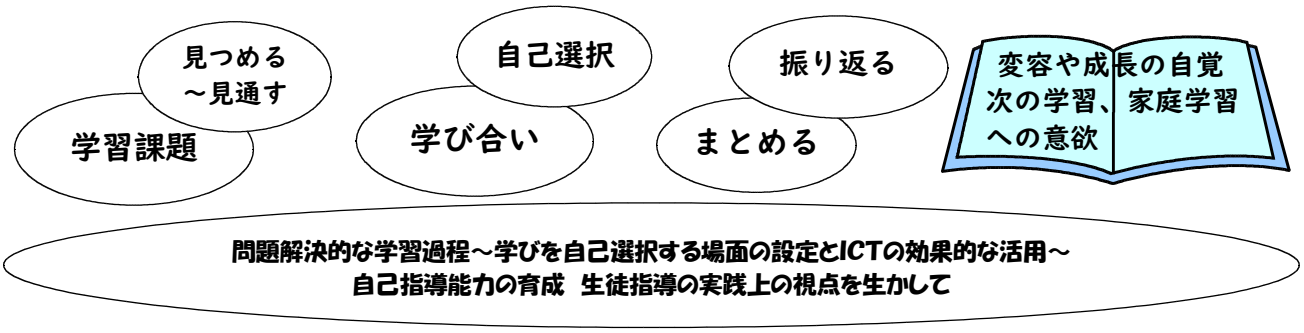
3　研究の仮説

本校生徒の課題として、学習に向かう意欲や計画性の向上、高い壁への挑戦、自尊感情、学び合いによる自己の学びの改善が挙げられる。そのため、今年度の最重要課題を【結】とする。課題解決に向けた取組の方向性は、生徒指導の実践上の視点を生かした【自己指導能力の育成】である。問題解決的な学習過程を基本とし、「分かる・できる」「自分・仲間」「手応え・楽しさ」がつながる学びを行うことにより、それぞれの過程で資質・能力が育成され、学び合いや振り返りによって獲得した学ぶ喜びの蓄積が、自己指導能力の育成につながっていくであろう。

4　共通実践事項

⑴　自分との関わりを見つめ、見通しをもつ学習課題
　①　既有知識・技能、経験、自己の能力を自覚する場面や学習の順序、解決や解答、方法、可能性（自己効力）について見通しをもつ場面の設定
　②　生徒の疑問や気付き、振り返りを基にする等、解決の必然性を感じる学習課題の設定
　③　必要な情報の可視化、繰り返し取り上げることによる学習内容の定着

⑵　関わりを通して自分の考えを捉え直す学び合い
　①　多様な考えの比較で互いの差異を認め合い、自分の考えを吟味し、他者の考えで補強することができるような場面の設定
　②　学びの選択肢を提示し、生徒が自分に合った学びを自己選択・自己決定する機会の設定（「いつ」「どこで」「誰と」「何を」「どのように」学ぶのか）
　③　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実・往還（個別最適な学びの成果を協働的な学びに生かし、協働的な学びの成果を個別最適な学びに還元する）

⑶　自己の変容や成長の自覚を促し、学びがつながる振り返り
　①　内面の変容や成長の自覚を後押しする具体的な学習状況を捉えた教師の価値付けや言葉掛け
　②　考えの変容や深まりを可視化する手立ての工夫、互いの学習の成果を共有したり、比較したりする場面の設定
　③　知識の定着や技能の習熟の確実な見取り（変容や成長の自覚を促す）

※　各学習過程におけるICTの効果的な活用（学びの深まりを支える）